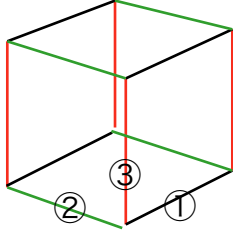


透視法まとめ

立体は縦(奥行き)と横(幅)と高さを持っている

下の立方体を見ると、①②③3つの方向を表す4本ずつの線がある



①奥行き(「縦」黒い線) ②幅(「横」緑の線) ③高さ(赤い線)

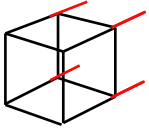
<透視図法>とはこれをアイレベル(目の高さ)「水(地)平線」を決め、「消失点」を想定して、この3種類の線に遠近をつけてゆく

消失点とは実際に自然界に点がある訳ではないが、「同じ大きさの物でも遠くのは小さく見えて行き、点の様に見える」という事を想定して作って行く。以後VPで表す

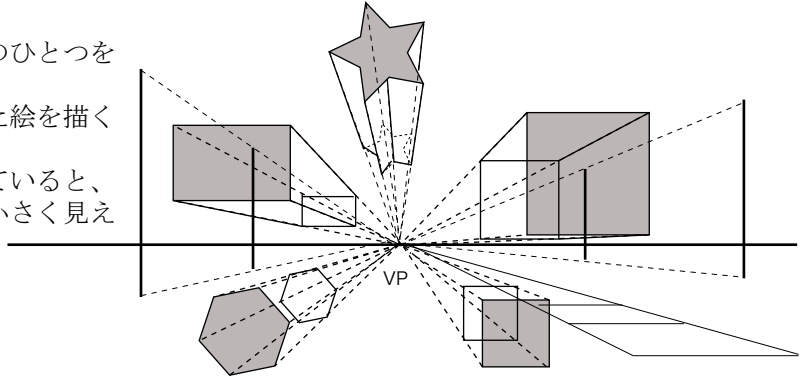
VPに結ぶ斜めの線は平行、言い換えれば同じ高さ同じ幅だということを表している

○ 1点透視図法

「縦」「横」「高さ」のうちのひとつを1点の消失点に集める。物体や空間をほぼ正面から捉えた絵を描くのに適している。車の助手席に座って行く先を見ていると、道路や建物が向こうに行くほど小さく見えるだろう

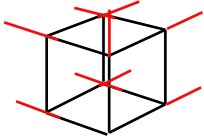


「奥行き」を1点に集めてみる



○ 2点透視図法

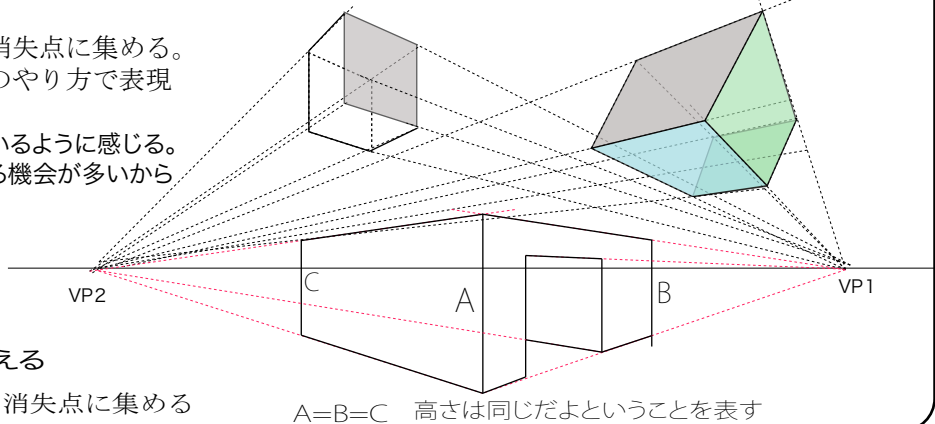
「縦」「横」「高さ」のうちの2つを2点の消失点に集める。空間の広がりのある絵を描く事が出来る。このやり方で表現される絵が多い。物は普通は2点透視や3点透視のように目に映っているように感じる。これは普段、物を2つ以上の面が見える場所から見る機会が多いからです。



物を角から見ると2つ以上の面が見える

「縦(奥行き)」「横(幅)」を左右2点の消失点に集める

右壁を描くときは右の消失点に結び、左壁は左に結び



○ 3点透視図法

「縦」「横」「高さ」のすべてを3点の消失点に集める。物体を見上げたり、見下ろしたりする絵が描け、絵に迫力を出す

奥行きよ小幅を左右の消失点へ、高さを上か下にとる

